



ヒトラーと暮らした少年

ボイン作 原田 勝 訳 あすなろ書房

一九三六年。孤児になったピエロは、おばさんのベアトリクスが働く山荘で暮らすことになった。山荘の主は、ヒトラー総統。ヒトラーと接するうちに変わっていくピエロを、ベアトリクスは心配し、不安に思っていた。

あるクリスマススイヴの日、ヒトラーが口にしようとしたシウトレンに毒が入っていることに気づいた。ピエロは、暗殺計画を告発する。ベアトリクスがその計画に関わっていると知りながら。

権力に憧れ、翻弄された無垢な少年の物語。

